

第2回 横浜市磯子公会堂指定管理者選定委員会 会議録	
日時	令和元年8月22日(木) 14時00分～16時50分
開催場所	磯子区役所6階601会議室
出席者	川添委員長(横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院教授) 遠藤委員(磯子区民生委員児童委員協議会会長) 三上委員(磯子区連合町内会長会副会長) 吉弘委員(NPO法人横浜市民アクト 理事) 渡邊委員(東京地方税理士会横浜南支部 税理士)
欠席者	なし
開催形態	一部非公開(傍聴者6人)
議題	1 面接審査 2 審査・選定
決定事項	1 第2回委員会の一部非公開の確認について 第1回委員会で決定したとおり、議題1の面接審査(プレゼンテーション及び質疑応答)は公開とし、議題2の審査・選定は非公開とする。 2 指定候補者及び次点候補者について 応募書類審査及び面接審査の結果、指定候補者及び次点候補者として次のとおり磯子区長に報告する。 ・指定候補者 株式会社清光社 ・次点候補者 磯子プロモーションパートナーズ
議事	会議の公開・非公開について、第1回委員会で決定したとおり、面接審査を公開とし、その後の審査・選定は非公開とすることを確認した。 事務局から、応募は2団体で、両団体ともに応募者資格の欠格事項には該当しないことについて報告した。また、面接審査は団体名をブラインド化し、「団体A」「団体B」として実施することを確認した。 1 面接審査 応募団体のプレゼンテーション10分間、質疑応答20分間で実施。 【団体A】 (1) 団体Aによるプレゼンテーション 事業計画等について説明があった。 (2) 質疑応答 (委員) NPO法人の役員と一緒に運営するという特徴をどのように出していくのかを詳しく説明してほしい。 (団体A) NPO法人の役員は地域と太いパイプを持っているので、役員とスタッフが一緒に地域にお伺いして、地域との連携を深めていくというような取組を杉田劇場では行ってきた。

(委員) 地域というのは、どのあたりを言うのか。

(団体A) 連合町内会単位を指している。

(委員) 高齢者への配慮は、具体的にどのようなことを予定しているのか。

(団体A) 現在杉田劇場でも、例えばギャラリーで展示をする時に、脚立に乗るのが大変という利用団体さんのお手伝いをしている。また、照明の当て方などは舞台スタッフが対応している。そういった応援や、その他重い物を運ぶことなどを応援していきたい。

(団体A) 和室を椅子に座って使いたいお客様がたくさんいらっしゃると思うが、現状のままだと、畳を傷めてしまう。そういった時には我々で簡易なじゅうたんを敷いて、椅子をご提供できるように工夫をしたい。通常スタッフとして配置している以外の、陰にいる杉田劇場のスタッフが、必要に応じて移動してお手伝いしたい。幅広い年齢層のお客様、当然外国人のお客様も今後ターゲットに入ってくると思うので、そういった方々にも安心して「あそこに行けば何か手伝ってくれるのではないか」としてもらえるように運営していきたい。

(委員) 以前から子ども向けに力を入れていたり、芸術家の育成に力を入れていたりするのは分かるが、自主事業を見ていると、若者層とか子どもにちょっと偏っているのではないか。高齢者向けに対する考えがあれば教えてほしい。

(団体A) 高齢者向け事業ということでは、最近文化事業ではソーシャルインクルージョン、社会的包摂というような取組をなささいといわれていて、そういった観点で高齢者向けの事業を重視していきたいと考えている。ジャズライブやクラシックなどの文化芸術に触れる機会の提供というところに盛り込んでいる。

(団体A) ご高齢の方には、決められた時間に決められた場所に来ることが難しい方がたくさんいらっしゃると思う。我々が施設に出向いて、出前をするという考え方を取り入れている。杉田劇場でもやっているが、公会堂でも、近くにある施設を訪問し、公会堂に来られる方は足を運んでいただけるように、敷居を下げていく努力をしたいと考えている。

(委員) 令和3年度以降は正規雇用職員3人、臨時雇用職員8人の体制で運営していくということで、臨時雇用職員の8人については、受付7人舞台応援1人ということになっているが、週にどのくらいの労働時間なのか。

(団体A) 受付の7名は、午前、午後、夜間の3交替で、ひとりが週に4回から5回勤務に入るシフトを考えている。舞台応援は大きな催し物で舞台スタッフが足りない時に応援に入ってもらう。

(委員) 受付については一人当たり月何時間という想定か。

(団体A) 月80時間前後という想定である。

(委員) 月80時間前後で、年間で90万円なのか。

(団体A) だいたい月8万円前後の経費になるという想定である。

(委員) 終日利用の場合に 56,700 円を 55,000 円にして、さらにポイントカードと書いてあるが、ポイントカードというのはどういうことを考えているのか。また、値下げすることのメリットとデメリットをどう考えているのか。

(団体A) 全館利用した場合のポイントカードは、5回全館利用していただいた時に1回分の付帯設備料をサービスしようと考えている。

(委員) 杉田劇場のノウハウを活用するとのことだが、公会堂の場合にはここは違うという認識を持っていることがあれば教えてほしい。

(団体A) 杉田劇場では自主事業を実施する際に、出演者にギャラを払うという形ではなく、共催という形にして、施設利用料は払わなくていいが、売れたチケットについて10%を手数料としていただくという形をとっている。そういったノウハウがこちらでも使えると考えている。

(委員) こちらでは違うかなと思っている点はないということか。

(団体A) これまでの事業をどのように実施しているのかつかんでいないが、こちらで同じような事業を実施する際に杉田劇場の手法を導入できないかと考えている。

(委員) 施設の利用料金を少し安く設定している理由について聞きたい。一度下げると元に戻すのは非常に大変だと思うが、どのような考えなのか。

(団体A) 利用料金は基本的には現行の料金を踏襲するが、全館利用のところだけ、若干のサービスができないかと考えた。講堂の午前・午後の区分については足せば現行と同じ金額である。例えばちょっとしたリハーサル利用など、1区分だけ利用する方が杉田劇場にもいっしょだったので、利用しやすくしたいと考えた。

(委員) なかなかいい提案だと思うが、全館で全日というのは、利用する団体は少ないのではないかと。どのような利用を想定しているのか。

(団体A) 各種の地域の団体の大きな発表会であるとか、民間企業の周年行事であるとか、そういったことを想定している。こちらから磯子事業会にお伺いしてPRしたいと考えている。

(団体A) あとバレエの発表会は人が大勢来るので、そういう時には全館借りていただくことになると思う。誘致したい。

(委員) むしろ稼働率を上げるために、そういうことではなくて部分的に使いやすくした方がいいのではないかと。

(団体A) 午前だけ、午後だけというのを設定している。ピアノのコンクールの練習などに使っていただけると考えている。

(委員) 杉田劇場のことを強調しているが、規模に関する考えは押さえているか。300席と600席の違いによる戦略の違いが見えないが。

(団体A) 「ひよこコンサート」というのを同じ日に午前と午後やっている。午前はお客様の入りがいいが、午後は入りが悪いという状況がある。午前のチケットの需要は席数以上にあるので、例えばこちらの公会堂を使って午前に600席でやるとお客様の要望に応えられると思う。

(団体A) エリア的にも1駅なので、公会堂で過不足がある部分は杉田劇場をお勧め

めしたり、杉田劇場で過不足がある部分は公会堂をお勧めしたりということで、スタッフが分かっている使い勝手の良さをお客様にお伝えして、相乗効果で売上を上げていければいいと考えている。

(団体A) 杉田劇場の方はもちろん、事業を前に出してやっている。公会堂はやはり稼働率で、底辺の拡大というところにターゲットを絞ってやっていきたい。

【団体B】

(1) 団体Bによるプレゼンテーション
事業計画等について説明があった。

(2) 質疑応答

(委員) 第2期の提案の目玉のように感じたが、「磯子こうかいどーず」について詳しく説明してほしい。

(団体B) 公会堂の音楽好きなスタッフが集まって平成30年に結成した軽音楽のバンドで、現在5名で活動している。いそご活動フォーラムや区内の施設、公会堂のイベントに出演させていただいている。今後は活動を本格化したいと考えている。

(委員) 年2回のアウトリーチ活動というのはどういうことか。

(団体B) 今年度については、上中里地区センターに伺ったのと、10月に久良岐能舞台に伺う予定で、他には公会堂の集会室やホールのイベントで出演依頼があった時に参加させていただいている。

(委員) 提案書の「知る」というのは、職員の方が色々なところに行って知ってくるという意味か。

(団体B) アウトリーチをすることで磯子公会堂という施設での活動を知っていただき、こういう職員が働いているということを知っていただき、親密性を築くことによって地域との連携を深めていくということで「知る」をテーマにしている。

(委員) 利用者会議を年2回開催すると書いてあるが、どのように開催するつもりなのか説明してほしい。

(団体B) 地区センターで利用者会議を実施しており、そのノウハウを活用している。利用者の方にお声掛けしているのと、公平公正に利用者会議に参加していただきたいということで、公会堂に掲示をして実施している。現状のところ参加人数は10名程度。

(団体B) 地区センターの経験から、利用者から要望や苦情を直接聞くことが重要で、それを改善していくことが大切だと認識している。このシステムを公会堂にも当てはめた。

(委員) いつからやっているのか。

(団体B) 第1期の1年目からやっている。

(委員) 地区センターではうまくいくと思うが、公会堂でうまくいっているのか。

(団体B) その中でのお声をもとに色々なものを導入している。ただ、まだ参加団

体が少ないという課題があるので、今後はもっと増やしていければと思っている。

(委員) 運営委員会というのは社内の内部組織なのか。

(団体B) はい。苦情や課題が見つかった時に、公会堂の職員だけでなく、当社の統括担当者という色々な施設を担当している職員や、維持管理に関する技術管理部の職員が参集して、様々な課題について意見を出し合いながら課題を解決するという事で、月に1回以上開催している。

(委員) 臨時雇用職員は令和3年度以降6名だが、6名の仕事の振り分けや、週何時間くらい仕事をするを想定していて、それに対する支払はいくらくらいなのか教えてほしい。

(団体B) 臨時雇用の6名は主に受付案内業務がメインになっている。それに併せて、当社はビルのメンテナンス会社なので維持管理の部分についても教育を行って、日常から状態監視保全ということで点検を行っている。
6時間勤務の2交替制で、週3.5日、月で15日くらいの勤務日数。月90時間程度の勤務でだいたい8万円から10万円程度を予定している。

(委員) 第1期をやってきた中で、反省点は何か。

(団体B) 色々な活動はしているが、少し広報が弱かったかなと思うので、2期目については広報にも力を入れていきたいと思っている。また、スタッフの仕事については、事務的なことだけではなく、休館日研修によって専門の者がスタッフにも色々な仕事を教えており、マルチスタッフ化を目指している。今後はそちらにももっと力を入れていきたい。

(団体B) 第1期目についても、5か年計画に基づいて提案書を確実に遂行するため、計画を立てている。ただ、色々な事情で時期がずれてしまうことがあったので、第2期目は確実にその時期に実施をしていきたいと考えている。第1期に提案した内容については全て実施しているが、第2期目は時期ずれをしないように計画通り進めていきたいと考えている。

(委員) 緊急時の対応計画の中で、避難訓練コンサートなど工夫してやっていると思う。このあたりの広域避難場所は久良岐公園の方になっているが、実際に久良岐公園まで歩いて行ったことはあるか。

(団体B) 徒歩では行っていない。実際に歩いてみて、どのようなルートで誘導していったらいいのか、というのが2期目の課題だと思う。

(団体B) 慶長型地震で津波が公会堂の前面道路まで到達することが予測されているが、到達時間は数分ではなくて時間がかかるという見込みから、久良岐公園まで誘導する時間が十分あると考えている。ただ、足腰の悪い方がいらっしまった場合は、区役所や近くの高台に誘導できるように考えている。

(委員) 講堂の稼働率が高く、利用した方の満足度も高いが、抽選に外れた方には他施設の案内やアドバイスはしているのか。

(団体B) 特に3月と7月は中学校の定期演奏会や吹奏楽部のコンクールがあるため、高い時には30倍くらいの倍率になっている。磯子区の方だけが抽

選に参加するわけではなく、皆様色々な区の公会堂の抽選に参加している。横浜市の公会堂ということで、公平公正に参加いただいている。外れてしまった方には、近くの公会堂や杉田劇場などの案内をしているが、定員が異なるため、磯子公会堂の利用を御希望の方には、申し訳ないが何度も抽選に参加いただいている。

(委員) ホームページを見たが、スタンプカード制度というのを探せなかった。

(団体B) ホームページの過去の投稿に情報が残っている。現在も実施していて、和室の稼働率向上につながっている。

(委員) 過去ではなく、今のところを出していかないと、情報を取れない。

(団体B) ホームページを改善したい。

(委員) 緊急時の対応計画のところだが、避難経路図は作成していないのか。

(団体B) 避難経路図は作成している。土砂災害警戒区域を避けた形で避難場所に誘導するようになっている。ただ、久良岐まで徒歩では行っていないので、それもふまえて改善していきたいと思っている。

(委員) 避難経路図は公会堂の中のどこかに掲示しているのか。

(団体B) マニュアルの中に入っているが、掲示はまだしていない。改善したい。

2 審査・選定

【応募団体の財務状況について】

委員から応募団体の財務状況について説明があり、どちらの団体も優良であるとの報告があった。

【審査結果】

磯子プロモーションパートナーズ (団体A) 524 点

株式会社清光社 (団体B) 691 点

満点：850 点 (団体の状況・実績を含む)

最低基準点：480 点 (160 点×5=800 点の6割)

2 団体とも最低基準を満たしており、株式会社清光社を指定候補者、磯子プロモーションパートナーズを次点候補者として選定し、磯子区長へ報告することを決定した。

【委員講評】

磯子プロモーションパートナーズは、文化施設を管理運営しているにもかかわらず、その強みを生かせていなかった。公会堂と杉田劇場の役割の違いを理解していないように感じた。また、利用料金を安くする理由についての説明が足りず、臨時雇用職員の賃金についての説明も、最低賃金を下回ってしまう懸念を感じた。

株式会社清光社は、第1期目を真面目に運営し、経験を積み重ねているのがわかった。第1期の反省点について提案書には明確に記載が無かったが、質問するとき

	<p>ちんと回答された。また、第1期の提案書と比較すると、第2期の提案書は実際の経験を踏まえて進歩していると評価できる。第2期も提案書のとおり努力して運営していただきたい。</p> <p>【その他】 磯子区長への報告書の作成、会議録の確認は委員長に一任する。</p>
資 料	<p>資料</p> <ol style="list-style-type: none">1 委員会タイムスケジュール2 応募団体からの提出書類（2団体分）3 現指定管理者運営実績評価資料